

第2回 道道きたひろしま総合運動公園線の整備における環境保全を考える協議会

議事録

日 時：令和2年6月29日 13:00～15:30（現地確認）
15:40～17:00（意見交換）

場 所：北広島市中央公民館講堂（一部リモート）

構成員：協議会開催要領 別紙-1による

座 長：札幌市立大学専門研究員 矢部和夫

事務局：空知総合振興局札幌建設管理部、北広島市

傍聴人：5名

報道関係者：北海道新聞社、(株)北海道通信社、(株)北海道建設新聞社、
北海道放送(株)HBC

1 開会

○事務局挨拶

空知総合振興局札幌建設管理部事業室長 鷲尾 亨

・皆様ご苦勞様でございます。札幌建設管理部の事業室長をやっております鷲尾でございます。どうぞよろしくお願ひします。司会からもお話ありました。本日は非常に天候悪い中、現地の方見ていただきまして、誠にありがとうございます。本協議会でございますが、先月28日に、第1回ということで開催したところございまして、今回も皆様本當忙しい中、こうしたWeb会議形式の会議ということになりまして、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日は、先ほど前段に現地の方を見ていただきましたということでございまして、これからの時間、まず事務局の方から、實際の皆様方のご意見に対します、特に環境保全に関します検討内容について、それと、あと橋梁の設計概要についてということで、ご説明させていただいた後、皆様方から、ご意見いただきたいと思ひます。いただきましたご意見につきましては、参考にしながら、今後の道路計画等についての検討に生かしていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

高木課長（司会者）

・ありがとうございました。それでは、ここからの進行につきましては、矢部座長にお願ひしたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

2 議事

矢部座長

・前回の検討事項などにつきまして、事務局の方から説明をお願いします。

(1) 事務局から説明

矢部座長

・ただいまの事務局説明と、今日の現地調査を踏まえて意見交換に入ります。検討内容について、専門家の立場から何か補足事項があったら確認した上で、議論を進めます。

(2) 意見交換

○事務局への要望事項について

在田構成員

- ・すいません、ちょっと先によろしいですか。本来先ほどの事務局の話が終わった時にお話すればよかったのですが、前回の議事録の話が出ましたけれども、あれは議事概要、議事録ではなくて、議事概要ですので、これからはきちっと逐語的な議事録をお願いしたい。
- ・概要だと、しゃべった本人の真意が時々、はっきり言ってこないという誤解されるということがありますので、お願いしたいと思います。
- ・それからもう一つ、前回確か或いはその前、2000分の1の地図、本線とか或いは工事用の道路が出た地図、それを提供していただくことについて、確かでき上がった時に提供するという話があったと思いますけれども、いまだに提供されておられません。
- ・ああいう図がないと、今日もよくわかりませんし、それから今日先ほど、後から言おうと思ったのですが、説明で橋の説明がありますが、実は工事用の道路が全然詳細が出てないんですね。
- ・後でお話しますが、今回一番問題なのは、工事用道路とっていますので、それをきちんと事務局の方で提供していただきたい。早急に提供していただきたいと思います。
- ・協議会資料を、事前にもう少し早く出して頂きたい。せめて3日4日ぐらい前にはいただければ大変ありがたい。

(回答)事務局

- ・図面についてはご提供したいが設計中というところもあり、参考としてお渡しすることになる。
- ・橋梁については地質調査中なので、橋台の位置などについて修正が出てくる可能性がある。
- ・議事録はご意見を踏まえて検討させていただきたい。

○ロードキル対策について

●エゾシカについて

浅利構成員

- ・基本的な調査は、どこを移動しているのかが大事なので、その調査方法でいいかと思う。
- ・近くに農地があるので、農地に誘引されているかどうかの確認はそのとおりに続けることでよい。

●両生類・昆虫について

矢部座長

- ・両生類等の移動について、今回の見直しの中で橋の部分が増えているが、そこからでいいということになるのか、それとも移動する経路上にも何か施設が必要となるのか。

浅利構成員

- ・両生類等の移動経路については、調査結果を見ていないのでわからないが、橋のところであれば全く問題はない。
- ・側溝については、両生類等が片側から道路に出ないようにして山側の方に戻るので、スロープ付き這い出し形状でよいが、道路横断して反対側の産卵地に行っているような状況の場合は、移動させる対策を考えた方がよい。

高井構成員

- ・ももとの産卵地に道路を跨いで行くような場合に、車に轢かれていたり、轢かれた両生類等が鳥等の餌になり、第2第3のロードキル被害を防ぐことを考えて、こういったスロープ付きの側溝を提案させていただいた。
- ・今日エルフィンロードのスロープ付き側溝を見たが、形状とかその高さに関しては、もうちょっと検討したい。

矢部座長

- ・側溝については少し検討が必要ということで、確認しました。

平田構成員

・昆虫類について、車のヘッドライトが一番、引き寄せる要因になると思うが、すべての光に対して寄ってくるわけではなく、特定の波長に集中して寄せられるということが、いろいろなデータから出ており、その光を完全に遮るのか、それともその特定の波長だけをカットするのか、いろいろなことが考えられる。

・今回の例として挙げられている写真は、高さが低いものなので、実際にはもう少し高くないと光を遮ることはできないかもしれないので、様々なタイプについて研究、検討していただきたい。

・道路の高低差、カーブ等々でできるだけ、野幌の原生林の方に光が当たらないようになったらいいと思うが、反対側の方が将来的に緩衝帯になるという可能性を現地で矢部さんから示唆されたので、野幌の原生林側だけではなく、反対側の遮光壁も必要なのではないかなと思うが、どこまで必要かは検討をお願いしたい。

○エコロードのコンセプト等について

矢部座長

・両側に2メートルの遮光板が入るとい道路になると、運転者にとっては景観も何もないような道路になっていく。その点も今後の検討事項であると感じている。

平田構成員

・何を優先するかというところが大事なポイントだと思う。

・野幌の原生林の生き物を大切にするという視点であれば、運転する人、道路を通る人の景観っていうのは、ある程度カットしなければいけない。

・一方でずっと地元の人が愛してきた野幌の原生林に、多くの壁構造ができると、景観としては非常に残念な思いになるかと思うので、その辺は生物の視点以外のことも考慮したほうがよい。

矢部座長

・植生については、本線法面は永久改変となるので、適切な管理をしながら、新たな植生を創出していくことでよい。

・工事中道路撤去後の植生の復元については、これまでの道路緑化や法面保護のために使われている種子吹付だけではなく、表土をどこかで植生をつけたまま、生かしたまま保存しておき、工事が終わるまでの数年間を養生させて道路に戻し、植生の復元を早めることができないかということをご提案する。

・復元する目標は、いち早く樹木を育てて樹林化をして、その下に現在ある林床性の草本を種子と、生きたまま保存した表土ごと復元していくことの可能性を検討していきたいがよろしいか。

在田構成員

・私は動植物の専門家ではないので、あまりこういう発言するのはちょっと気が引けるのですが、先ほどいろんな小動物の対応についてのお話で側溝とかが出ましたけれども、実は私の手元にこの鬼首道路、エコロードへの挑戦っていう本を知り買いました。

・これは国交省の湯沢工事事務所が施工したのですが、そのとき地元の人と専門家の人たちの提案によって、国交省が研究会をつくり、作る前と作った後、数年間モニタリングしてこの本にまとめたという本があります。

・例えば動物が入らないような或いは出やすいような側溝については、実験までやって、いろんな角度を変えたりしてやっていますので、2005年度出版ですので、最近新しい手法がいろいろあるかもしれませんが、是非ともこういうのも参考にさせていただきたいと思っています。

・それから、これはもちろんご存知かと思いますが、国交省の国土技術政策総合研究所というところがありまして、野生生物に関する道路横断施設の一種と事後調査に関する技術資料というものもありますし、それから、沖縄の北部国道事務所が出した小動物保全対策の手引きっていうものもあります。

・そういういろんな資料があると思いますから、今回そういうものをいろいろ参考にして、もちろんどれが一番良いついていうのはおそらくないのでないかと思いますが、参考にしてやっていただきたいと思っています。

高井構成員

- ・エコロードを作るとなったときに、生き物の命を守ることと緑豊かな景観を守るということは、相反することもある。
- ・エコロードをどのようなコンセプトで作るのかを、皆で共通認識を持つことも考えてみてはどうか。
- ・何を重視するのか、どういう配分で重視するのかというようなコンセプトは、極力早めに決めて検討したほうがいい場合もあるが、いかがか。

矢部座長

- ・その部分については皆さんそれぞれ考えをお持ちで、私自身は両方の立場をどうしても考えてしまうこともあるが、やはり議論を深める中で、それぞれの個別の問題に対して、皆さんが合意するような形しかないのではと思っている。
- ・最初から決めてしまうと、こういう場も必要なくなってくるような気がするので、いろいろな諸条件が関わってくるなか、それをできるだけ聞いて、合理的な判断を下すのがこの場ではないかと思う。
- ・北進通という道路が計画されている南側は、現在国有林と特別天然記念物になっている。今回のアクセス道路との間が新たに特別天然記念物の追加指定地となったが、これは南側にある特別天然記念物を守るための緩衝地帯という位置付けになっている。
- ・今後、北広島市が緩衝地帯の森林について、よりよい方向に保全していくと、ここもかなり高度な天然記念物に将来的にはなっていけるところ。
- ・そうすると、現在のアクセス道路の北側の部分の工事用道路を付ける部分が、新たな緩衝帯という位置付けになって、ここの自然環境を向上させることが、特別天然記念物の追加指定地を守るために重要な役割であると考え。
- ・このアクセス道路は、北側と南側からの生物に対する影響を対等に考える必要があるという考え方について、提案したい。

高井構成員

- ・わかりました。

高木構成員

- ・かつてここは川沿いの湿地が水田として利用された。水田が利用されなくなり、放置されて70年経って、現在のような環境に戻ってきた。二次的な環境として再生した。
- ・もし道路を造るのなら、水田が放置された現在のように良い環境に戻るまでの70年後、100年後を見据えた環境保全が必要であると思う。
- ・その地域に対する愛情とかを含めて考えると、工事用道路も細心の注意を払って造られるべきである。新たな考え方として、矢部さんがおっしゃったような緩衝地帯が、むしろより良い環境として充実してくれば、今回被るネガティブな影響を相殺できるのではないかと思う。矢部さんは、そのようなことをイメージされているのだと思う。

○土工による法面の影響範囲について

在田構成員

- ・事務局の方にお伺いしたいのですが、今日現場を見てきたなかで、幅が9メートルの道路ができて、いくつか盛土、切土があるわけで、例えば盛土の場合は、この資料によりますと、一割五分の斜面にするっていう、だいたい30度ぐらいなのだそうですが、その場合、高さによりますけれども、一番高いところだったら、下の面積は大体どのぐらいになるのでしょうか。

(回答)事務局

・盛土の高さとか法面の大きさにもよりますので一概には言えませんが、盛土法面自体をこのたび大幅に発生をしないように計画し直しております。大きな切土法面は発生するのですが、大きな盛土法面のところは、あまりなかったと記憶しております。

在田構成員

- ・切土も盛土も同じことです。
- ・道路幅は9メートルですから。

(回答)事務局

・高さが10メートルぐらい、法面が2段になりますので、それで下幅面積がいくらかは計算しないと出ないのですけれども。

在田構成員

- ・いや、そういうところが大きな問題だと思うのですけれども。

(回答)事務局

・道路法面も路体になりますので、走行する自動車の安全性ですとかを確保しなければいけませんので、安定する勾配というものがあ、走行する車両を守るため、道路自体を守るためにどうしても必要になります。

在田構成員

・要するに我々は、自然をできるだけ守りたいという視点ですので、例えば盛土でも切土でもそうですけれども、道路よりかなり大幅に切るわけですよ。それがいったいどれぐらい広がるのか、それを知りたいという趣旨なのです。私、計算してみます自分で。

○工事用道路について

在田構成員

・現場でもちょっとお話しましたけれども、この本線よりも、工事用道路が一番大きな問題で、図を見せていただくと、この裏の沢の水辺のところ、ずたずたにしてしまうわけですね、工事用道路が。

・実は我々北広島市と足かけ2年、3年。正式には専門委員の方も含めて4回で、それ以外にも7、8回。数は忘れましたけれども、話をしてきましたけれども、工事用道路のことは、一切我々知らなかったのですね。

・さっきも話しましたけれども、フィールド、野外調査を日高山脈などで行いましたけれども、そこで林道なんかよく見えますけれども、その林道、それから我々北海道自然保護協会が今まで反対をしてきた大規模林道の現場を見たり、今破棄され、放棄されたところを見たりしていますけれども、ああいう林道はもうどんどん前へ前へと進んでいるのですね。特に工事用道路なんてないのですよね。従って私自身は大変うかつにも、工事用道路のことはまるっきり考えていなかったのですね。ただし、北広島市との議論も中でも、工事用道路はどうかという質問、確か1回か2回したと思いますけれども、しかしそれは回答なにもないし、その後、我々もそれについて言及することはなかったものですから。

・今回新しく工事用道路の図面をもらって初めてわかったのですね。先ほどもちょっと言いましたけれども今日もいろんな資料の橋のところがあるのですけれども、この橋の近くちょっと広くすると工事用道路がたくさんあるはずなのですけれども、それも出てないので、ちょっと議論しにくいのですけれども。

・工事用道路の問題は随分先に戻りますけれども、いわゆる北海道政策評価委員会、それが去年の7月に道道昇格をいいですよって案を出したのですけれども、その時に、三つの付帯意見を出しまして、その三つ目だったか、自然環境が大きく変わるようなことがないようにと出しています。それから政策評価委員会の議事録を見ますと、この議事録は逐語的にきちんと出ているのですけれど

も、それを読みますと、内田委員長が、現地の自然保護の状態が変わるようなことがあれば、その調査のために、期限を過ぎてもそれはしょうがないですねっていう、そういう発言をしておりますで、そういったものを受けてまとめとして、三つの意見が出ているわけですね。

- ・そういうことを考えますと、委員の人たちはこういう工事用道路のことも、まさに全然想定してなくて、前の公共事業評価専門委員会に出された案ですから非常に、橋が短いような案であって、そういうことももちろん工事用道路を示されなかった状態で工事用道路の問題点を議論して欲しいっていうのは、今では全然無理な話で、それはそれでしょうがないのですけれども、とにかく想定していなかった工事用道路をとというのは明らかに本通りよりも、本線よりも、周りの自然を破壊する。

- ・従って、委員長が言っているように、そういう大きな自然を破壊するようなことが出てきたら、そこで改めてその対策を考え、そのために、期限が長くなってもしょうがないっていう、私自身はそういう考えであります。

- ・従って、この場によって、もうちょっと工事用道路の情報がないと、なかなか議論しにくいっていう、状況だということをお話したいと思います。

三澤構成員

- ・今日見た最初の場所、また次に見た西の里のパークゴルフ場の方も、かつての開拓の跡であるし、水田あるいは畑の跡だが、あそこをまた改変していいのかということには結びつかない。

- ・70年なりかけて元の自然の形に戻っていったもの。

- ・道路を通すことはやむを得ないし、理解もしているが、あの自然は可能な限り、かつて人間がそこで活動していたとしても、なるべく手をつけるべきではない。必要最低限の工事にとどめるべきと考える。

- ・やかましの森は幼稚園の活動の場所で、毎日、雨の日もどんな時でも園児たちが自然と触れ合いながら活動している。道路が通ることで、水の流れが変わってしまい、子供たちがそこに生息する生物と触れ合ったりすることができなくならぬよう、活動を保証してもらいたい。

- ・工事用道路は、本線の北側に作られるわけで、かなり複雑に工事用道路が入っており、特に水辺の広場、やかましの森と裏の沢川あたりが問題だと考えている。

- ・事務局の北広島市役所の方にお聞きする。水辺の広場に造る公園線の工事用道路は、西裏線施工時にもう1回掘り起こすのか、そのまま放置して、西裏線の方の工事用道路として再利用するのか、どのような計画であるのか。

- ・市民の憩いの場である水辺の広場は、工事用道路が入ることによって、確実になくなることは明らかなので、新たにもう一回作り直すのか。

矢部座長

- ・西裏線も含めた工事用道路ということになると、最長でどのぐらいの期間、設置されているということになるのか。

(回答)事務局

- ・水辺の広場の散策路については、工事用道路や本線工事の施工の際、使えなくなることは明白な状況ですので、一部利用制限させていただくような形になるものと考えている。

- ・工事完了後は、工事用道路の撤去とかがまだ正確に決まっていない部分もあり、今後、散策路をどうするのかは、あわせて検討してまいりたい。

- ・西裏線に対する工場用道路については、順次着手していく予定であり、一度撤去してまた作ることはせずに、そのまま継続して使わせていただきたいが、どの部分をどういう形で使うのかというのは、今後詳細を検討してまいりたい。

- ・まだはっきりした年数は申せませんが、西裏線に係る工事用道路につきましては、JRを越える橋梁の工事に必要となることから、今後JRとの協議も含めて、年数は決まっていくものと考えています。

矢部座長

- ・工事用道路のいろいろな諸問題については、水の環境も一緒に議論していくように願う。
- ・認識の問題だが、1号橋周辺の自然環境について、周辺は森林がなくて明るいう認識を持つわけで、なぜあそこがそういう環境かというのは、必ずしも農作放棄が終わってから時間が短いということではないように見ている。
- ・優占している林がヤチダモの木であり、これはやかましの森の方にあるハルニレよりも、もっとじゃぶじゃぶな環境に育つもの。それが結構な太さになっていたの、それなりに年数が経っている。
- ・あそこに森林ができていないのは、非常に水位が高く、ヨシ原になっているために木は生えなく、それで明るくなっており、植生復元について時間が短くて森になっていないということではないように思っている。

在田構成員

- ・もう一度工事用道路のことについてお話ししたいと思いますけれども。
- ・要するに、私はもうできるだけ工事用道路は、つけて欲しくないっていう意見なのです。
- ・冒頭に、先ほど言いましたように、私のイメージはどんどんどんどん前へ進んで行くっていう。そういう工法を思っていたのですけれども。最近はいろんな技術が、橋の場合は進んでいて、一方的にどんどん前に行くような技術もあると聞いておりますので、そういったことも利用して、ぜひとも工事用道路は原則作らない、用いないで。
- ・どうしても必要なところだけはしょうがないっていう、そういう考えてやっていただきたいなと思います。

三澤構成員

- ・工事用道路が、共栄の養護学校側からと、パークゴルフ場のところからの2箇所、両方から攻めていくという形なのだが、なぜ左側一本じゃないのか。
- ・特に右側の共栄の養護学校側には、共栄の住宅地があり、ダンプカーだとかがそこを通ることになり、その先には水辺の広場や、やかましの森という非常に大事な、非常に複雑な裏の沢川の流域帯もある。
- ・左側の西の里のパークゴルフ場側を工事用道路として優先的に使うようにしてほしい。
- ・JRの向こう側に舗装された道路があり、踏切を渡る形にはなるが、そこをうまく利用すれば、なにも林の中に工事用道路を左右両方から進めなくても一本だけでもいいと思う。効率の問題でもあるのか。
- ・また、将来の西裏線のために、工事用道路を共栄側に早く造ってしまうのかと勘ぐってしまうが、左側のパークゴルフ場側から攻めてくる工事用道路だけでは、やはり難しいのかお聞きしたい。

(回答)事務局

- ・お話のあった踏切が1ヶ所あるが、JRの往来数から考え、そこにダンプを通すと、工事中の効率が落ちることもさることながら、そこにダンプをひっきりなしに通すことは避けたい。
- ・それと、個人所有地の私道なので、それをお借りして工事用道路にはしがたいところ、このように工事用道路になったものです。

在田構成員

- ・しつこいようで申し訳ないのですが、もう一度念押ししておきますけれども、工事用道路っていうのは、例えば橋桁20メートルとか何メートルあるのですかね。それを運ぶわけですよ。大きなトラックかなんかで。そうすると相当な重量になりますから、2車線にすると、あの辺湿地ですから、相当補強しないとイケませんし、それから小さな水路もあります。それなんかも渡ることも考えなきゃいけない。
- ・そうすると、膨大なそれなりの仕事になってですね、いろんななんて言いますか、土砂とかそういうのを入れないとイケないのですね。一応ここは復元するということになってはいますけれども、

復元っていうのは一体、どこまでを言って復元っていうのかがはっきりしないのですね。私の素人考えでは、そういった膨大な土砂を入れると、それを今度取るために、何か引っ掻くようなものを入れて、またそれで地面を痛めるとか、そういうことありますから。

- ・基本的には工事用道路は、使わない、作らない、そしてできるだけどんどん前に行くような工事でやるっていうことを事務局でこれから考えていただきたい。
- ・最新の技術を使って、できるだけやるということで、その案も示していただければ、これから比較検討するにも、非常にありがたいなっていうことを思っております。

(回答)事務局

- ・上部工の桁を持ってくるには、公道を走ってきますので、通常の道路で運べる重さであるということであり、工事用道路の中にそれ以上に重いものを持ってくるということではなく、運んできてそのまま工事用道路に入ってくるということになります。
- ・工事用道路の造成は、碎石等を入れることとなりますので、例えばシート養生してみるとか、いろいろと考えてはいますが、現実的にちょっと難しいところもあるので、まずは一般的手法のやり方でお示しさせていただきたいと思っています。
- ・工事用道路をする、しないの比較論っていうのは、作れなくはないのですけれども、コスト含め総合的に判断していくしかないと思っております。多分コスト面で、かなりの差が出てくるかなと思っております。
- ・工事用道路は、工事を円滑に進めたいところと、環境に配慮しながら両立を図るもので、協議会のご意見を聞きながら、しっかりと我々も進めていきたいと思っていますので、次回はそういった資料を提出したいと思っており、速やかにやりますのでご理解よろしく申し上げます。

在田構成員

- ・前の公共事業評価専門委員会の議事録読めば皆さんわかると思うのですがけれども、委員の方数名の方がいらっしゃいまして、いろんな意見とか質問とかして、それに対して事務局が答えるっていうような議事録です。
- ・委員の方が、私数えましたら、23 ぐらいの意見、質問をしています。そのうちの 13 が、この地域の自然に関わる、いかに自然を守ったらいいかっていう質問なのです。つまり半分以上の質問とか意見が、この地域の自然を危惧しているということなのです。
- ・ということは要するに、委員の人たちがいかにこの地域の自然を守るか、重要かと思っている。それであるからこそ、異例、あまりないそうですけれども、三つの意見を付帯意見として出しているわけですね。
- ・従って、あれは非常に重いのですね。ですから効率とか、そういうのも大事かもしれませんが、この地域の大事な自然を守るという視点をまず第一に考えていただきたいというのが、我々の、私の意見で、それは公共事業評価専門委員会の皆さんも、そうであったのじゃないかと思っています。
- ・実はこれに関連して、道の総合政策部とか建設部の部長局長 4 名宛に、意見書要望書を出したのですが、回答は木で鼻をくくるっていうのですかね。そういう回答が来まして、大変遺憾に私は思っているのですが、そういう事情がありますので、ぜひとも自然を守るってことを非常に大きく考えていただきたいと思っています。

○取付道路について

在田構成員

- ・一つ具体的な話になりますけれども、前回の資料 6 ページですけれども、真ん中に農家の方がいらっしゃるところですよ。そこに今回の道路に合流するために、上と下から農家の方が使う道路が入るようになっていきますけれども、これをやると、シカが入ってくるわけですねそこに。シカの保護柵ゲートをその道路上下のところのどこかに作るっていうわけじゃないでしょうから。もとも

とあるそれより左側に道路がありますが、それをアンダーパスにすると、問題が全部解決すると思うのですが、その辺はどうなのでしょうね。

(回答)事務局

- ・畑周辺にシカがいるという結果が出ているところもあり、畑にシカ柵が入れられているのです。
- ・シカの被害があったせいもあって入れられていることもあるので、そこをシカのための経路としていいのかという議論もございますので、民地の方とそこをきちっとお話したうえで慎重に検討したいのです。

在田構成員

- ・ちょっと私の質問の趣旨とずれているのか、私もお答えが理解できないのですが、私の話は簡単でして、そこにはもうすでに既存の道路があるわけです。
- ・そこをアンダーパスにして、もちろん農家の車の通れるように。そうすれば本線に繋がる取付道路はつくる必要はないのではないかという単純な話です。

(回答)事務局

・今回、本線ができるという中で、取付道路を付けていただきたいという要望がございましたので、計画しているところです。

○植生フィールド試験について

事務局

- ・植生の復元についてご意見をいただいている中で、フィールドにおける試験を実施していきたい。
- ・切土だけに関して、工事中の道路には関係なく本線なりで切ることができる。
- ・土を切って、そこにどんなタイプの植生が一番復元において妥当なのかというところを、なるべく早い時期に試行していきたい。
- ・2箇所をお示ししているところですが、試行する部分についての具体的な話については別途示しますが、こういった形でフィールド試験を進めていきたいと考えているところ。

在田構成員

- ・これについては、試験ってというのはなんなのか。

矢部座長

- ・法面の移植とは違う在来種の緑化である。その効率性やどのような方法が有効かということです。

在田構成員

- ・何年やるのですか。

矢部座長

- ・それは数年かかります。

事務局

- ・実際その在来種の種子を入れて、何年でどうなるかは断定できませんので、年数的なところも含め専門家の方にお聞きしながらと考えている。
- ・また、現道からのやり方っていうのを少し検証できるというふうにも思います。
- ・了解いただければ進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

矢部座長

- ・エビデンスベースで、在来種による復元を図っていくという方法は有効なので、やったほうがいい。

- ・了承することでよろしいですか。(異論なし)

- ・では、お願いします。

3 まとめ

- ・ロードキルに関する部分で、トラフへの細工というところを一定程度理解いただいたので、両生類等も踏まえながら、具体的な形を次回に提案する。
- ・昆虫に関するロードキル対策としては、遮光壁を基本に検討を進める。北側の緩衝帯を意識した南北両方向を含めながら、次回、もう少し具体的な提案をする。
- ・今日一番話題となった工事用道路は、様々な意見をいただいたので、いわゆる片押しを含めた比較検討といったところを、ロードマップも策定しながら、次回、お示しする。
- ・今後のスケジュールについては、具体的提案を策定し、7月下旬あたりに開催したい。
- ・その間に、各分野において個別に相談させていただく。
- ・植生などについては、個別にワークショップなどの検討も考えており、ご相談させていただく。

4 閉会